

隅の親石

「家造りの捨てた石が、隅の親石となった。
これは神のわざ、人の目には不思議なこと」
(典礼聖歌 87 詩篇(118・22-23))

この詞は何を意味しているのでしょうか。
「家造り」、「捨てた石」、「隅」、「親石」
と言葉が出てきますが、何のことでしょう
か。
「親石」という言葉は聖書全編のうちもう 1
ヶ所に出きます。

「主はつむじ風の中からヨブに言われる。
私はあなたに尋ねる、わたしに答えよ。
私が地の基(もと)をすえた時——その
土台は何の上に置かれたか、その隅の石は
だれが据えたか」 詩篇(38・4-6)

これを読むと、「だれ」は神ご自身のこと
だとわかります。すると元の詞は「家造りの
捨てた石を、神が隅の親石にした」という意
味になります。

この地では家は石で造られていて、親石
というのは石造りの建物の基礎のうちでも、
隅に据える非常に大事な石のことです。

この石がキリストのことを意味し、その
礎(いしずえ)の上に教会が建てられたと解
釈することができます。すると「家造り」と
は、キリストを捨てた専門家つまりユダヤ
教のリーダーたちです。

「キリストは人間の姿で現れ、死にいたるま
で、しかも十字架の死にいたるまで、
自分を低くして従うものとなった。
それゆえ神はキリストを高くあげて、
すべてにまさる名をお与えになった」
(ピリペへの手紙 2・6-9 典礼聖歌 317)

詩篇の 2 ヶ所とピリペへの手紙の言葉は、
共通の内容であることがわかりますね。と
ころが前者は旧約聖書、後者は新約聖書で
すから、詩篇は予言書として読むとよく理
解できます。

実際、聖書の中で「予言が成就された」と
あるものの多くは詩篇にあるいくつかの言
葉が予言として解釈されたものです。

旧約と新約をつなげた一つの聖書とし
て読むと、「隅の親石」の意味もはっきりし、
その奥深さに触れることができると思いま
す。